

第1学年3組 図画工作科学習指導案

日 時 平成26年〇月〇日（〇）第5校時

場 所 1年3組教室

児童数 男子15名 女子13名 計28

指導者 本 川 尋 美

1 題材名 どうぶつむらのピクニック A表現（2） B鑑賞（1）

2 題材について

（1）児童の実態

本学級の児童は明るく元気である。図画工作は、好きな学習の一つであり、多くの児童が図工の時間を楽しみにしている。一学期の「ひかるいろのなかまたち」では、セロハンテープやはさみの使い方を習得した。また、「ちょっきんばでかざろう」では、はさみとりの使い方を習得した。「うきうきボックス」では、両面テープや木工用接着剤の使い方を習得した。2学期に入り、「できたらいいこんなこと」ではイメージを膨らませて、楽しく意欲的に絵を描くことができた。この題材を通して、さらに、道具の使い方をしっかりと習得させたい。また、動物とピクニックをするイメージを膨らませて使用する材料の形や色への関心をもたせていきたい。

（2）本題材を指導するにあたって

本題材は、紙の空き箱を主材料にして想像を広げ、動物など思いついたものをつくる内容である。空き箱の組み合わせによって空き箱がいろいろな動物に見えてくる。空き箱の形や色、大きさ、ふたの開き方などが活動のヒントになる。また、活動過程では、友達のいいところを見つけ、作品をさらに高めるために、作品で遊んだり、友だちと見合ったりする時間を設定したい。そして、互いの作品を手がけている様子を自然に見ることができるよう、座席の配置を工夫したい。自分の活動を楽しみながら、友だちの活動のよさや工夫も楽しませる。その中で新たな発想や表し方の工夫が生まれてくると考える。

3 学習指導要領上の位置付け

A表現（2）感じたことや想像したことを絵や立体、工作に表す活動を通して、次の事項を指導する。

ア 感じたことや想像したことから、表したいことを見つけて表すこと。

イ 好きな色を選んだり、いろいろな形をつくって楽しんだりしながら表すこと。

ウ 身近な材料や扱いやすい用具を手を働かせて使うとともに、表し方を考えて表すこと。

B鑑賞（1）身の回りの作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を指導する。

ア 自分たちの作品や身近な材料などを楽しく見ること。

イ 感じたことを話したり、友人の話などを聞いたりするなどして、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに気付くこと。

〔共通事項〕

ア 自分の感覚や活動を通して、形や色などをとらえること。

イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。

4 「教育に関する3つの達成目標」とのかかわり

規律ある態度

「授業の前に、机の上に学習用具をそろえることができる」より、授業で使う学習用具や材料を揃えて授業に臨ませる。

「先生の話や友達の発表を、最後まで聞くことができる」より、先生や友だちの発表をしっかりと聴けるようにする。

「～です、～ますを言うことができる」より、発表の際には「～です」「～ます」をいうことができるようにする。

5 研究主題とのかかわり

研究主題 自ら学び、豊かに伝え合う児童の育成
～国語力を育て、伝え合う力を高める指導法の工夫～

めざす児童の姿

- ・言葉や表現に興味をもち、主体的に読み・書きのできる児童
- ・身につけた国語力を生かし、豊かに表現ができる児童

手立て1 読み取ったことや自分の考えを伝え合う活動を工夫して、自分の読みを広げたり、深めたりできる児童を育てる。

- ・自分の思いを表現し、友達の表現に共感できる場の工夫をする。

手立て2 言語感覚を磨く学習環境を整え、言語活動を充実させることで、思考力、判断力、表現力を育む。

- ・教室の環境を整え、ほかの児童の作品に触れる。
- ・自分のイメージを膨らませるため、他の児童と話し合いをする場を設定する。

手立て3 「読むこと」「書くこと」の指導を通して、児童の興味・関心に応じた課題や授業形態を工夫し、確かな国語力を身につける児童を育てる。

- ・ペアや、グループ活動などの授業形態の工夫

6 目標及び評価規準

(1) 目標

空き箱の形や色、大きさやふたの開き方などの特徴を生かし、つなげたり、組み合わせたりしながら、思いついた動物などを表現する。

(2) 題材の評価規準

造形への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
①紙の空き箱を主材料にしてすきな動物をつくることに、楽	①空き箱や材料の特徴からつくりたい動物などを思いついてい	①思いに合った形や色になるように、材料を切ったり、はり合	①互いの作品で実際に遊んだり説明したりしながら、表現や材

しみながら取り組もうとしている。	る。 ②つくりたい動物の特徴を自分なりに考えながら、空き箱や材料を選んだり、使い方を構想したりして、さらに思いを広げている。	わせたり、つないだりするなど、表し方を工夫している。	料の使い方の面白さ、楽しさなどに気づいている。
------------------	---	----------------------------	-------------------------

7 指導と評価の計画（8時間扱い）

時間	学習のねらい・学習活動	学習活動に即した評価規準			
		造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
1	1. 空き箱の特徴をもとに、作りたい動物などのイメージをもつ。		① 空き箱や材料の特徴からつくりたい動物などを思いついている。 (発話・行動・表現)	「発想や構想の能力」の評価 この段階では、好きな動物を想像し、材料の特徴に興味を持ち、意欲的に見立て遊びをする様子をとらえる。	
1 ～ 7	2. 集めた空き箱や材料を組み合わせたたり切ったりしながら、自分がつくりたい動物などをつくる。	①紙の空き箱を主材料にして好きな動物をつくることに、楽しみながら取り組んでいる。 (発話・行動・表現)	「造形への関心・意欲・態度」の評価 紙の空き箱を主材料にして、好きな動物をつくることを楽しみ、表現したもののおもしろさを感じながら取り組む様子をとらえる。		①思いに合った形や色になるように、材料を切ったり、はり合わせたり、つないだりするなど、表し方を工夫している。 (行動・表現)

	3. つくっている動物を色紙などで飾ったり、ピクニックへ行くための持ち物をつくったりなど、さらに思いを広げながらつくる。		②つくりたい動物の特徴を自分なりに考えながら、空き箱や材料を選んだり、使い方を構想したりして、さらに思いを広げている。 (発話・行動・表現)	「発想や構想の能力」の評価 試行錯誤を繰り返しながら、形や色、組み合わせ方によって多様な表現をしている様子を評価する。	
8	4. つくった動物を持ち寄って仲間とともにピクニックへ行く想定で、互いの表現を見合う。		「鑑賞の能力」の評価 互いの作品の中で、実際に遊んだり、説明しながら、それぞれの表現や材料の使い方のおもしろさ、楽しさに気づく様子をとらえる。		①互いの作品で実際に遊んだり説明したりしながら、表現や材料の使い方のおもしろさ、楽しさに気づいている。 (発話・行動・作品)

8 本時の学習（本時 1／8時）

（1）目標

○紙の空き箱を主材料にしてすきな動物をつくることに、楽しみながら取り組んでいる。

【造形への関心・意欲・態度】

○空き箱や材料の特徴からつくりたい動物などを思いついている。【発想や構想の能力】

（2）準備

○教師：画用紙、色画用紙、色紙、カラーペン、両面テープ

○児童：空き箱、空き容器、ひも類などの身近材料、クレヨン、クーピー、はさみ、接着剤

(3) 展開

過程 時間	学習活動	指導の工夫 〔共〕：〔共通事項〕に係る内容 ＊言語活動に関する指導上の留意点 ☆研究主題とのかかわり	評価方法と手立て 〔◎：十分満足できる状況〕 〔◆：C判断児童への手立て〕	準備
	提案１：空き箱が動物の顔になったり、体になったりするよ。 持ってきた空き箱がどんな動物に変身するのかな。			
10	1 どんな動物とピクニックに行きたいか、また、どんな空き箱が動物のどんな部分になるか発表しあう。 「キリンさんと一緒にピクニックに行きたいな。」 「ホワイトタイガーを作りたいな」	＊ ☆どんな動物とピクニックに行きたいかペアで確認しながら発表させる。（手立て３） ・特徴的な動物の写真を提示する。 ・はてなボックスを使って、箱の一部の形を変えたり、手を加えたりすると材料の表現が大きく変わることをおさえる。	発① 空き箱や材料の特徴からつくりたい動物などを思いつく。 【発話・表情・表現】 ◎ 空き箱や材料の特徴から自分のつくりたい動物などを思いついている。 ◆ どんな動物ができそうか空き箱の形を手にとってとらえさせて想像を広げさせる。	写真 紙皿 トイレットペーパーの芯 空き箱 段ボール
10	2 集めた空き箱や身近な材料の特徴をもとにして、作りたい動物などを考える。 「黄色い箱だからキリンを作ろうかな」 「紙皿でライオンの顔を作ろう」	・自分の持ってきた箱が何に見えるか、実際に操作させ、何ができそうか考えさせる。 〔共〕 形や色からイメージを膨らませて材料を組み合わせ、動物を作らせる。 ＊ どんな動物ができそうか発表させ、想像が広がるようにする。 ☆ グループで箱を組み合わせ、箱のイメージを膨らませる。（手立て１）		空き箱 空き容器
	提案２：集めた材料を組み合わせ、自分のつくりたい動物に変身させよう。			
10	3 空き箱の接着の仕方を知る。 「足は、切って貼り付	・接合のポイントがわかる資料を用意することで、材料を接着剤やテープ、ホチキスなど		

	けるといいんだね」 「ここはボンドより紙テープのほうがいいな」	で接合できることを確かめ、自分の思いにあった材料の組み合わせができるようにする。 ・はさみなどの用具の安全な使い方について全体で確認するとともに、個別で声をかけるようにする。		
10	4 集めた空き箱や材料を組み合わせたり切ったりしながら、自分が作りたい動物を作る。 「トイレットペーパーの芯を足にしよう」 「お菓子の箱の空いているところを口にしよう」 「これは何でくっつけようかな」	・いろいろな材料の特徴をみつけさせる。 〔共〕材料や形、色、その組み合わせによって、多様な表現ができることに気づかせる。 ・空き箱や身近な材料の特徴をもとに試行錯誤している姿を称賛し、その姿を全体に広めていくようにする。	関①紙の空き箱を主材料にしてすきな動物をつくることに、楽しみながら取り組んでいる。 【発話・表情・表現】 ◎表現したものののおもしろさや楽しさを感じながら取り組んでいる。 ◆箱を手にとって、話し合った動物からできそうな動物を考えさせる。	
5	5 本時の学習をふり返る。	・できたところまで発表させる。 ・友達のいいことを見つけさせる。		

(4) 板書計画

どうぶつむらのピクニック

もってきたはこがどんなどうぶつにへんしんするのかな？

きりん

写真

写真

写真

写真

ぞう

うさぎ

うま

ライオン

ホワイトタイガー

ペンギン

つけかた

